

# 中学生における飲酒と健康についての効果的な保健授業に関する一考察

曾根 一真 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード：飲酒，健康

## 1. 緒言

近年、子どもの生活環境の大きな変化に関わって、深刻化している心の健康、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病、薬物乱用、性に関する問題等、様々な問題が存在している。若者の飲酒は、中高年と比較して、脳をはじめとする各機能への悪影響や障がいになりやすくなる。また、身体に及ぼす急性アルコール中毒やアルコール依存症等のリスクが高くなり、事件・事故の関連も強くみられる。

そこで私は、中学校の「健康な生活と疾病の予防」という単元に着目し、効果的な教育法を研究し、実践で活かしたいと考える。

従って、本研究では、滋賀県内中学校2校に対して「飲酒と健康に関する指導」を実施する。その授業前に子どもたちに飲酒についての意識調査を行い、現状を知り、それに対応した授業展開を考える。

## 2. 研究方法

### 1) 本研究の調査対象

- ・ 大津市立S中学校第3学年 183名
  - ・ 大津市立H中学校第3学年 219名
- 計 402名

### 2) 調査方法

生徒の飲酒に対する意識についてのアンケート調査(選択式)を実施後、授業を行う。アンケートの項目は文部科学省の薬物に対する意識等調査を参考に作成した、10項目を用いる。生徒の飲酒に対する意識調査を行い、授業展開・教材・教具を工夫した授業

が効果的な授業であったかを明らかにする。

## 3. 結果と考察

本研究ではパワーポイント、アルコールパッチテスト、ブレイン・ストーミング、ロール・プレイング、横断幕の五つの教材を使用した。これらの教材・教具によって、より生徒たちにわかりやすく、飲酒によるアルコールの恐ろしさ、心身に及ぼす影響を伝えることができた。その結果として、授業を受けた生徒からは「こんなにもアルコールが体に害を与えるなんて知らなかった。こんなにも悪くなるなら大人になってからも飲みません。」など、本研究で扱った教材・教具が有効だったと実感するメッセージをいただいた。

## 4. まとめ

各指導法は、特定の資質や能力を形成するのに有効である。幅広い資質や能力、特に思考力・判断力などを育てるには、多様な指導方法を活用する必要がある。また、指導法によっては、その活動が得意な子がいれば、不得意な子もいる。指導方法が偏ってしまうとある特定の生徒だけが、学習効果が現れる可能性がある。しかし、多様な指導法を選択することによって、より多くの生徒が活躍する場面が期待される。

## 引用・参考文献

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課(2002)薬物に対する意識等調査報告書。15-24, 35-40.